

# 平成 24 年度 第 3 回 櫛引地域審議会 会 議 録



期 日：平成 24 年 10 月 10 日(水)14:00～

場 所：櫛引公民館多目的ホール



## 平成 24 年度 第 3 回櫛引地域審議会

○日 時：平成 24 年 10 月 10 日(水) 午後 1 時 30 分から午後 4 時 37 分まで

○会 場：櫛引公民館多目的ホール

○出席者：敬称略

(委員) 前田勝、斎藤ゆう子、小野寺雄司、成田新一、上野重和、渡会昇、澤川宏一、  
佐久間泰子、秋山武彌、佐久間忠勝、松浦安雄、今野慎太郎、成田勇、森 薫、  
斎藤美恵、今野亨

(市側) 櫛引支所長佐藤孝朗、総務企画課長今野勝吉、同課主幹菊地ゆかり、市民福祉課  
長本間俊司、産業課課長補佐小池健美、総務部南部税務室室長菅原ゆり、建設部  
南部建設事務室室長佐藤正明、企画部地域振興課地域振興専門員三浦裕美、総務  
企画課総務地域振興主査前森淳子、同課コミュニティ防災主査蛸井弘、同課総務  
地域振興主査菅原正一、同課コミュニティ防災専門員眞壁建、同課主任梅津一成、  
同佐藤文博

(傍聴者) 1 名

### 1、開 会

13:30

### 2、あいさつ

#### 前田勝会長 挨拶

皆さんこんにちは。それぞれに、お忙しい日程がおありだったとは思いますが、本日このようにご参集をいただきまして誠にありがとうございます。感謝申し上げたいと思います。

今、空には秋茜が飛んでおりまして、また庭には秋の七草、ハギ、オミナエシ、ススキ、フジバカマだとか色んな花が咲いて、一段と秋の深まりを感じているところです。また、先般は、台風 17 号がありまして、本州を縦断するような予想があり、台風の行方を大変心配していたところでありましたが、お陰様で、結果をみればこの庄内を避けて通り過ぎていってもらいました。庄内は、台風災害等にあつては比較的少なく本当に良いところだなあと改めて思いました。

さて、本日は予め懸案となっておりました当審議会の協議テーマについて、ご協議の上決定をいただくものであります。宜しくお願いを申し上げます。

本日は、まことにご苦労様です。

#### 佐藤孝朗支所長

皆さんこんにちは。本日は大変ご苦労様でございます。今年度第 3 回目の開催ということで、只今会長さんからもありましたが、前回の地域審議会に引き続き審議会の協議テ

マをご議論いただくということになっております。前回は委員が改選されまして、初めてご参加の方もいらっしゃいまして、十分なご発言ができなかった部分もあろうかと思いますが、本日はそれも含めましてご審議いただければと思います。

それから、前回のテーマ(案)として事務局案をださせていただきましたが、若干説明に不足があったのではないかと、委員の皆様にご誤解を与えてしまっている部分もあったようにも思いましたので、後ほど改めてその部分を説明させていただきたいと思っております。

今日はこのテーマ以外には、その他の議題もございませんので、十分時間をかけて、ご意見をいただければありがたいと考えております。

また、せっかくの機会でございますので、昨年櫛引地域審議会から提言いただいている「行政の積極的な婚活支援の推進」について、若干、櫛引地域での具体的な取り組み状況をお話しさせていただきます。

独身男女の出会いの場の創出ということでは、8月4日にグランドエルさんを会場に、櫛引庁舎が主催した「ときめきタイム」には、男性19名・女性18名の計37名の参加がありまして、7組のカップルが成立しております。また、ここに成田塾長さんもいらっしゃいますが、9月17日に松根塾で開催した「ワイルド婚活」においては、男性10名・女性5名が参加して開催され、3組のカップルが成立したと聞いております。また、9月30日に「鶴岡まちづくり塾櫛引グループ」と「産直めぐり」さんの協力ではじめて開催した「恋の産直」には、男性12名・女性8名の参加があり、5組のカップルが成立したと聞いており、それぞれに、一定の成果がでてきている状況にあります。また、来月には藤島地域や温海地域でもイベントが開催される予定となっており、少子化のご時世の中で、その一番の原因でもある未婚者の増加に対して、こういった活動をとおして、未婚者への啓発なり、具体的な行動や参加に結びつけて参加者の裾野を広げていければと考えておりますので、皆様におかれましても、このことにご支援を賜ればと考えております。

本日は、ご審議どうかよろしく願いいたします。

### 3 協議

#### 前田勝会長

それでは、只今から協議に入りますが、一つ皆さんにお願いを申し上げたいと思っております。実は、先般第2回の地域審議会において、委員の皆様から色々ご協議ご発言をいただいたことについて、そのまとめについては会長に一任をいただきましたので、本日これからそのまとめについてお話しをさせていただこうと思っております。

本来、私がいるときには、私が協議の進行を務めることになっておりますが、今日後ほど総務企画課長さんからも説明をいただきますが、提案側に回らせていただきたいと思いますので、これからの協議の座長を、副会長の斎藤副会長に努めていただきたいと思いますので宜しくお願いしたいと思います。

## 齋藤副会長

齋藤です。なにしろ不慣れでございますので、皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

これから、櫛引地域審議会の協議テーマの決定に入るわけですが、本日の流れでございますけれども、これから、前田会長よりご提案をいただきまして、次に当局からご説明、その次に委員の皆様よりお一人ずつ質疑ご意見などを頂戴していければと思います。前回8月1日に開催されました地域審議会では、地域の活性化に向けた住民主導のコミュニティ推進組織について検討されました。それで今前田会長からお話しあったとおり、まとめテーマ設定については、会長預かりとなっております。これから、前田会長から提案をお聞きし進めてまいりたいと思います。それでは、宜しくお願いいたします。

## 前田勝会長

それでは、私から先般会長預かりとなっておりますこれからの協議テーマについて、どういうまとめをしたのかについて発表させていただきたいと思います。

実は、先般皆様から多くのご意見をいただきました。それを、順不同ではありますが、要約、並べてまいりますと、こんなことが出されたのでないかと考えます。

一つは、急激な人口減少が続いている。これを発言されたのは東地区の方でございましたが、櫛引地域全体においても言えることであります。それから、地域経済の活性化。これは、だれでもが心配していることではあります。若い人たちの雇用対策こういったことも重要だと話された方もおりました。この審議会は、新市建設計画の進捗状況をチェックしていくということが、一つの大きな使命としてあるが、そのことはどうなっているのかというご指摘もありました。

また、スポーツの振興、健康寿命の伸長を出された委員もございました。老ク連からは、元気な高齢者になるように組織あげて取り組まなければいけないという意見もありました。グリーン・ツーリズムの推進については、どこまで進んでいるのかという意見もありました。それから伝統芸能の継承については、多くの委員からこの地域の黒川能をはじめとする伝統芸能の継承は、大変重要だという意見が出されました。中山間地域の振興に対するご意見もありました。最近庁舎に来ると、知っている顔が少なくなったなど今後の庁舎機能について心配するご意見もありました。人間ドックの受診料が大変高くなったという声もありました。

また、最近、異常気象が常態化する中で、防災対策はこれまでどおりで良いかという意見も出されました。櫛引地域を見直すに当たって、櫛引だけを見るのではなく、新市全体、他の地域を見て櫛引を考えてみるのが重要な視点でないかというご意見もありました。

地域の農業は、観光・感動・希望の3Kを目指してがんばるべきだ、という力強いご意見もありました。もっと観光農業を発信して向かっていったらという提案もありました。

地域の元気力としての若者の存在を理解してほしい。若者が少なくなっている中で消防

団活動等含めて若い人が頑張っている。地域の安全安心のために日夜頑張っているわけですが、そのことについて皆さんから理解をいただきたいという発言もありました。

また、一番多かったのが、当地域が伝統的に築いてきた自治組織や自治公民館活動を是非継承して存続させたいものだという強い意見がありました。これが皆さんからいただいた全てではありませんが、皆さんからいただいた意見を振り返ってみて、各審議委員の皆さんの櫛引に対する熱い思いを持っておられることに、感動いたしました。

そこである委員の方から、最近会長は、櫛引はかつては輝いていたがどうも最近はその輝きが薄らいできたと言われるが、一体輝きとは何のことを指して言っているのかという発言をいただいたと思います。かつては輝いていたが最近輝きが少なくなったと、ただその言葉だけでは済まされないと思いますので、昭和 29 年の合併以来櫛引の歩みを振り返って見てみました。

松浦安雄さんの著作があるわけですが、私はそれを拝読して多くの教訓をいただきました。その中に「過去は前に進む道標」という蘊蓄のある言葉がありまして、その著書から多くのことを学びました。暮らしのこと、労働のこと、家族のこと、教育のこと、伝統のこと、松浦さんが大変熱く語っていました。その中で、これからのことを考える上で、過去のことを考えることの重要性を改めて感じました。町村合併してから今年で 58 年が経つわけですが、当地域が歩んだ栄枯盛衰を辿ったわけであります。

非常に多くのことが分かりました。これも順不同ですので最初に言ったことを大事だというふうに取りなさいいただきたいのですが、一つは、国の指定となった黒川能が、この 58 年間の中にもものすごい歴史を刻んでいるということでもあります。地方から中央までの文化賞を総管めにしている。例えば一番地元は、鶴岡の高山樗牛賞であります。そして県の文化賞である齋藤茂吉文化賞、東北の文化賞である河北文化賞、ほか吉川英治文化賞など多くの文化賞をいただいております。地方の民族芸文としては、群を抜いているのであります。

こうした伝統芸能があるということは、能楽に対して関心がある無しに関わらず、誇りであり、大変な影響があると言えます。58 年を振り返ると黒川能の話題がない年はないくらいすごいことになっております。改めてびっくりしました。

それから第 47 代横綱柏戸の誕生、旅先や研修に行くと櫛引を地図で説明する前に、柏戸が生まれたところだと大いに自慢してきたわけであります。改めて大先輩柏戸の足跡をたどりましたが、すごい。これだけの人を生み出せるこの地域のすごさを実感しました。

また、近年は一躍注目されてきておりますが、県指定文化財の丸岡城跡と加藤清正公の遺跡があります。旧櫛引町をはじめ市当局の大変なご厚意によりまして、現在まで 2 億円ほどの投資をしております。調査費に 7～8000 万、外構工事、公園の整備に 1 億 2 千万近く投資をしております。これもすごいことだなあと感じております。

農業に目を転じてみますと、櫛引町が取り組んだ農業農村の近代化、総合整備事業、こ

これは、一時期、旧農林水産省からは櫛引は実験室だとまで言われた先進地であります。何でも櫛引はやってきたところがあって、水利事業、圃場整備事業、一次構、二次構、多くのことがありました。そしてモデル事業、この地域に農林省があれば道路もできるし、あらゆるものができた。そうした中で、この櫛引がいつも先を走っていた。ある時代、県知事が言われたそうですが、「山形県に視察に来るのであれば、都市であれば天童市、町村であれば櫛引町に行きなさい。」と言われた知事がおられて、私達の町長が大いに自慢しておりました。そういう時代を櫛引は歩んできているのであります。

それからインフラの整備、水道、下水道、道路整備。道路整備に至っては、山形県で改良率、舗装率、全部ベスト5に入るそういう地域であります。水道、下水道については100%整備できる体制が整っている。これも先輩達がこの地域に寄せる思いが非常に強かったためだと思っております。

それからまた、工業団地の造成。いわゆる圃場整備がらみで余剰労働力の吸収のため、いち早く町内に3つ工業団地を造成してきました。そして、人口の減少対策には、住宅団地を町が造成してきました。あの当時、多くの町村で人口が減少していく中で、櫛引だけが減らない町でした。これは奇跡的なことでもありましたし、先輩達が先を読んで取り込まれてきた結果でもあります。

一方ソフト面では、学校教育、社会体育の振興。これにまた大いに力を入れてきたのであります。新しく櫛引の学校に赴任してきた学校の先生が、まず驚くのが学校教育に使える予算の潤沢さでした。旧山添、旧黒川から教育には大変熱心であったと先輩諸氏から聴いております。逆にその先生に対しては厳しいところであったと。藤島と櫛引で教員が務まればどこでも務まるとも言われておりました。その位私どもの先輩は教育に力を入れて参りました。そして多くの人を輩出して参りました。そういう伝統のある地域であります。

また社会教育については、21の地区になるまでには先輩達の大変な苦勞、熱意があったわけでありまして。公民館では何度も文部省の大臣表彰を受賞しております。それだけ学校教育、社会教育に熱を入れている地域であったわけでありまして。その結果として、自治会。公民館活動というのが、自治会を支える援護者になったのだと思っております。今日、自治会が整然と活動できるのは、この公民館活動の下支え、多くの人たちが一つの目標に向かっていくという下支えがあって初めてできていると思っております。

最後に、マンパワーについて申し上げます。青少年や青年のパワーについてであります。スポーツにおいては、特に伝統的なスポーツにおいては、櫛引は強かったのであります。相撲、サッカー、バレーボール、体操、これらは、東北大会、あるいは全国大会へと駒を進めて参りました。これは、急に強くはなれないのだと、長年スポーツに親しんでき者としても感じておりますが、伝統を守って頑張る姿勢がございました。

それから婦人消防。かつて2年間の壮絶な訓練により全国大会で銅メダルをいただいております。

結局は、ここの人たちは、ちゃんと目標を決めて頑張ればできる人たちだ。それを支えてきたのが、自治公民館であり自治会であり、心をつちにしてきた結果なのではないかと思ひます。松浦先生の本を読みながら、先生の言うことは本当だなあと。皆さんから多くの意見が寄せられましたが、やはり目標をつちにしてみんなが頑張っていく、それがなくなつたときにどうひうことが起きるかというひ、地域が衰退していくのだと思ひます。成長して頂ひにきて衰退して再生していく。この繰り返しになつてきたのではないかと思ひます。

今日、私は皆さんの櫛引に寄せる熱い思ひを胸に、先ほど松浦さんの本から引いた「過去は前に進む道標」であるひの言葉から、一体我々の先輩達はどうしてきたのかを振り返つてみて、今日の提案とさせていだひたところであります。

行き着くところ、皆さんの意見に多くありましたが、これまで築いてきた地域の組織、住民の組織、これを大事にしていこう、民俗芸能など守つてきたことを大事にしていこう、こういうことが寄せられました。そういうことを受けて、櫛引が輝かなくなつていくというひのは、誤解しないでいだひたいのですが、最後に申し上げておきますが、私も役所のOBでもありますので、かつては良かったというつもりは決してありません。やはり、物事は成長して衰退して再生するを繰り返すというひのが時代のトレンドがありますので、詰まるところは、今課題としていくる広域コミュニティの組織、かつて櫛引が築いてきた自治、あるいは公民館活動、これをいかに新市でソフトランディングしていくか、そしてもう一度櫛引の人の熱い思ひを確かめる何かをしなくていいひのか、賑わひの創出はできないひのか、例えばそれは運動面であつたり、文化祭であつたり、色んな催しはあるひと思ひますが、そういうことを我々も含めて、そのことを皆さんから語つていだひたい「協議テーマとしていだひたい」と思ひました。私からの提案を、以上とさせていだひきます。

後、課長のほうからも説明いだひきます。

#### **斎藤副会長**

会長ありがとうございました。58年間の長い歴史の中でこの小さな櫛引という町が大きな誇りを持ってやつてこれたひのは、人材、イコール人の財産であつたひのことを改めて気づかせていだひきました。それでは、当局のほうからも説明よろしくお願ひいたします。

#### **今野総務企画課長**

—資料1、参考資料1・2・3に基づいて説明—

#### **斎藤副会長**

ありがとうございました。今資料3まで説明ありましたが、そのほかに当局で付け足すところありますでしょうか。参考資料4も出ておりまして、この間私どもから東日本大震災の鶴岡市の対応についての質問あつたため、資料もいだひましてありがとうご

ざいます。

それについては、5のその他、のところで説明していただきたいと思います。

ただいま会長と総務課長から説明ありました件につきまして、委員の皆さんから意見なり質疑を頂戴したいと思います。お一人ずつ伺いたいと思います。

#### **小野寺委員**

事務局案の中の「今後もこの自治組織を束ねる中心が、櫛引のみ行政直営で行っていき保証はない」ということですが、市としては、地域のコミュニティセンターみたいなものを設けないと、行政では面倒は見られないということで、こういった文言になったのかなと感じていますが、どうでしょうか。

#### **今野総務企画課長**

すでに地区公民館となっている藤島、羽黒については、地区公民館を地域づくりセンターとして、生涯学習機能や防災、福祉等を含めた活動拠点ということで、地域組織が主体的に運営することに移行する方向で地元協議が進んでおります。櫛引、温海については、温海はちょっと変則的なのですが、4つほど地区公民館があるのですけれども、概ね櫛引と同じで庁舎の脇のふれあいセンターに中央公民館機能がありまして、櫛引公民館と同様公設公民館の形をとっております。藤島、羽黒、櫛引、温海についても、その方向性で進んでいくのではないかと印象を持っております。その際、住民組織からなるそうした受け皿的組織がないと今後スムーズな移行等が難しくなってくると。櫛引地域は、中間的な組織が全く無いものですから、住民自治組織を束ねるような組織、櫛引に適した組織について意見をいただければと考えているものであります。

#### **小野寺委員**

はい、わかりました。

#### **成田新一委員**

私も地区の公民館の主事ということで、公民館の研修の中で聞いたことがあるのですけれども、概ね他の集落の方も言うておりましたけれども、馴染むのは櫛引では容易でないのではないかと声がありました。実際、小学校単位で公民館を置くというような、黒川では王祇会館に置くというような具体的な話まで出たことありましたが、まだちょっと容易でないのかなあという感じを受けます。

私は、農協のほうから出ているものですから、農協も8つの農協が一緒になったということで年2回座談会に行くことがあります。ということは、櫛引以外にも行くということで、朝日、温海、羽黒、そういった方面に年1回は行くわけですが、そこそこで、やり方がそれぞれ違っています。それが合併したから統一しようということではなく、そこそこが今までやってきたことを継承しながら今もやっていますが、それなりに地域的なことがあるものですから、揃えるのは難しいかなあと思います。

櫛引は21の自治組織があるわけですが、農協も21の生産組合でやりたいとい

う思いもありますが、一つの自治会に4つ、5つ組合があるところがありました。去年黒川上が合併しまして、春日山、宮の下、上の山、椿出が合併しました。ただ、黒川上も全部一緒にやりたいという意見もありまして、地域の方々が話し合ったのですけれども、橋本と一緒になれなかったということで、黒川上の生産組合が2つある状況です。それからたらのき代には、たらのきだい代生産組合と月山生産組合がありまして、この春合併しました。助成金をもらっている関係で今まで一緒になれなかったということがあったわけですが、黒川中地区は、生産組合が4つあります。ただ、座談会等は一緒にやっているようではありますが、そういった状況でなかなか一緒にするのは難しいと思います。十分に話し合っていないとコミュニティの問題も同じで、進める場合は十分話し合っていないといけないと思います。

#### **上野委員**

私は下山添地区に住んでおりますけれども、住んでから10年ほどになりますが、7、8年ぐらい前だったかと思いますが、公民館の主事ということで2年間ほど自治公民館の活動に参加させていただきました。その中で、非常にこの地域はまとまっていると思うことがいくつかありました。それらを経て、今は地区の自治公民館で子供たちの放課後子供教室を2名の方でやっております。聞くところによりますと紆余曲折があったようですが、現在は多くの子供さんたちが放課後に、勉強したり遊んだり、子供たちの教育といったらおかしいですが、そういった地域の子どもたちに対する思いというか、情操教育に非常に貢献していると思っております。したがって、藤島地域をモデルとして、という話ですが、私としてはこの櫛引の21の自治会というものを残していただければありがたいなあ、と今の話を聞いて思った次第であります。

#### **斎藤副会長**

只今、放課後子供教室のことについてお話がありましたけれども、この件について何か当局のほうから付け加えるようなことはございますか。特にございませんか。それでは渡会委員お願いします。

#### **渡会委員**

先ほどから農業から伝統芸能から色んな話が出ておりますけれども、商工会も合併しておりますので、今現在のことを少し話しておきたいと思っております。出羽商工会として一緒に丸3年になります。大山、温海、三川、藤島、櫛引、朝日、羽黒で出羽商工会を作ったわけでありまして。その時黒字だったのは、温海だけだったんですよ。全部赤字だったんです。作ったのは良いけれども、何も事業できない状態が丸2年続きまして、今は資金力少しあるわけですが、事業をやれといってもなかなかできない癖がついている。だんだん廃業も多くなってきて、最近は資金を借りる人もいない。

これが今の商工会の実態であります。一度低迷するといかに立て直すかということになるわけですが、夏祭りも一つの方法だったのですが、あれも来年度やることになっ

たらよろしく申し上げます。来年は金曜日にやって 1,500 人ぐらいの人を集めたいと思っております。人を集めてなんぼだと私は思っておりますので、なるべく人を集める機会を作らなければならないと思っております。

農業でもなんでも、まず何をやるかが大事です。特産を作るにしても、いろいろな栽培方法などがある中で、一つの方針を決めてもらわないとなかなか進まないと思います。産地形成からすべての面で形成していかないと、特に中山間地などは厳しいと思うんです。

人が住める条件をいかに整えていくかだと私は思っております。

#### **澤川委員**

前回も、現状 21 の自治組織を継続すべきだと言ったのですけれども、これまで文化面、スポーツ面、他の地域と切磋琢磨してやってきたわけですので、地区の特徴もあるわけです。これは大事なことだと思います。

地区には鎮守の森があります。鎮守の森を昔から中心として色んな行事が行われてきたという経緯があります。それに歴史的なもの、そういったものが大事だと思います。西荒屋には、地区の財産として森林や田んぼ、畑などがあります。地区の皆さんによって苦労しながら管理されてきて、それが地域づくりに大いに貢献してきたというのが、地区の特徴だと思います。

今の 21 の集落でまだまだやっていると私は思っております。情報交換なり、更に進展なりしていくには、いろいろこれから研修なども必要だと思いますし、ただコミュニティを一つにまとめるのは反対なわけではありませんけれども、現状では今の 21 の自治組織でいいのではないかと思います。

#### **佐久間泰子委員**

社会福祉協議会は、市に一つしか設置できないということで、鶴岡市の合併と同時に隣接の市町村が合併して一つになりました。同じことをやるにしても地域によって温度差がある。地域の良さをコミュニティに活かすとすると、大きいからこうすればいいというのではできないと思うのです。絆とか言われまして、市内のほうで隣近所の部分ですごく取り組んでいるのですけれども、地域によって取り組み方が違ってくるものですから、大きいコミュニティを作るといっても、地域にあったやり方でやらないと壊れていくのではないかとすごく心配です。旧鶴岡市の理事から聞いても同じ学区でも小学校区でだいぶ温度差があるみたいで、いままで凄くがんばってきたから今があるのだと私は思いますけれども、櫛引は 21 の集落で同じことをしていても、その地域の一番良い方法で切磋琢磨しながらやってきたと思います。ですから、この地域の良いところをなんとか組み入れてうまくやれたらいいと思います。すごく難しい問題だと思います。今年中に一定の方向性を出さなければならないのでしょうか。

#### **今野総務企画課長**

今年中ということではなく、議論をはじめてはどうかという提案です。21 地区につい

では先ほどから申し上げておりますけれども、21地区の自治組織、自治公民館を変えるということだけでなく、それぞれの集落というのは、地域コミュニティの中核的機能としては引き続き存続していく、澤川委員からもありましたけれども、切磋琢磨してやってきたんだというのはその通りでありまして、そのことについては引き続き21地区という単位で機能を果たしていただくこととなります。ただ、人口減少の流れの中で、これまでやってきた集落の活動が困難になってくることも想定される、そういったときに広域的なコミュニティ組織でそこを担っていくことに将来的にはなるのではないかと、そのための櫛引に合った広域コミュニティは、小学校区単位でいいのか、中学校区単位でいいのか、それにとらわれない単位がいいのかなどといったことを、今から協議していく必要があるのではないかとということで、テーマとしてご提案しているものです。先ほど市街地の例、郊外地の例ということで説明しましたが、広域的単位での活動も違いがありますし、こちらのほうで言うと地区単位でやれる事業、広域的な組織でやる事業というようなことで、その受け皿となる組織が必要になるのではないかと考えてございます。

例えば、集落の運動会をやってきたわけですが、人も減ってきた、くたびれてきたというようなことで1年おきにするのが、2年おき3年おきにする流れで、別の事業も作っておりますけれども、例えば、小学校区単位で小学校の運動会とあわせて運動会ができるようにするのも、広域的なコミュニティの事業になりえるのではないかと考えてございます。

#### － 休憩 －

#### 秋山武弥委員

高齢者の一人暮らし世帯、高齢者だけの世帯、親子二人暮らしの家庭、将来一人暮らしになる可能性があるそういう家庭が最近かなり増えております。私、黒川中区ですが、そこでも増えておりまして、そういう人たちのために隣近所で支えあうような事業を大いに取り入れて、安全安心に暮らせるように環境整備していくことを重要視していかなければならないと思います。そのためにも、地域でできることがあれば一緒になって考えていきたいと思っております。

#### 佐久間忠勝委員

3点ほど質問をしながら確認していきたいと思うのですが、事務局からテーマ1、テーマ2の二つの提案ありましたけれども、これは皆さんの意見を聞きながら最終的に一つのテーマに絞るのか、あるいは、テーマ1、テーマ2が生きていくのか、というのが第1点です。

2つ目ですが、説明を受けた資料についてですが、参考資料1の5ページのほうに非常勤特別職の兼務のことが書いてありまして、温海と鶴岡は異なっていると書いてありますが、兼務をしない場合の違いは何なのか。例えば、権限だとか、活動の違いとか、報酬だとか、どのように違うか簡単に教えていただければと思います。

3つ目ですが、参考資料3に事務局体制ということ、事務局長、主事、事務員の3名体

制と書いてありました。これは常勤なのか、何名が常勤なのか、後のほうの資料を見ると委託料の範囲は、常勤の職員一人分ぐらいの委託料なのかなあと見たのですが、この3つについて質問します。

#### 今野総務企画課長

テーマ数については一つに絞るということではなくて、二つについて協議を進めてはどうかという提案でございます。

それから、特別職の関係ですけれども、区長が非常勤特別職になっているわけですけれども、報酬が出ております。これと同じやり方が、鶴岡、温海地域を除く朝日の駐在員制度、藤島、羽黒になります。違いといえば、非常勤特別職に委嘱されている方には報酬が支払われている。そうでない方については、直接市から報酬という形ではなく、温海地域については、つい最近まで特別職だったのですけれども、同額が行政交付金という形で各町内会等に交付されておりまして、町内会から同額が支払われている例も多分にあると思います。櫛引であれば、市からの報酬に加えて、地区からの報酬も手当てされている地区もあると思いますけれども、温海の場合ですと区長報酬が交付金に変わりましたけれども、地区にそのまま支払われているということです。

鶴岡地域については、合併後いくらかの期間は、郊外地については駐在員ということと特別職の立場でありましたが、今は特別職でなく交付金という形で交付されております。

特別職であれ櫛引地域の場合は、広報の配布ですとか、各課からの連絡などを特別職という立場でやっていたというようになります。

鶴岡地域の市街地だと補助金や業務委託の形で市の業務を行っていただいている状況です。

それから、3つ目のコミセンの職員体制ですが、事務局長、事務員ということで、コミセンの管理運営のための要員ということで、郊外地であれば1.5人という見方をしている。加えて生涯学習推進のための要員ということで1名、行政連絡要員ということでほぼ1名が、各コミセンに配置になっていまして、ほぼ常勤で体制が組まれていると思います。ただし、事務局長ですと定年をされ年金受給を加味しての報酬が、それぞれの地区から支払われていると思います。基本的には、常勤3名で運営されていると思います。

#### 佐久間忠勝委員

わかりました。

それでは、コミュニティ推進組織についてですが、21の自治組織の再編の趣旨は全く無いという説明でした。私も櫛引地域の自治公民館活動は大変長い経過があり、大切な役割を果たしてきたと思いますし、従来どおり継続していくことが重要だと思います。大方の認識がそうでないかと思います。一方、今年の4月に出されました行財政改革大綱、重点的な取り組みとして、小学校単位の広域コミュニティ組織の育成と拠点の整備が示されたわけでありまして。

その中で現在の自治公民館を維持しながら、防災、福祉、地域づくりを含めた地域の拠

点となる地域活動センターの整備という方向が示されたわけであります。

鶴岡地域は21のコミセンがあるわけであります。また、旧町村には地区公民館が藤島には3箇所、羽黒4箇所、朝日1箇所、温海4箇所と聞いております。櫛引はご承知の通り、地区公民館はないわけで櫛引公民館一つだけであります。

鶴岡地域をはじめ、各旧町村は防災、福祉を含めた地域の拠点作りが進められようとしている中で、櫛引は必要ないのか。これは、将来に影響を及ぼす大変大事なことだと思います。是非協議テーマに設定してみんなで議論すべきでないかと思います。それから、拠点施設、広域的コミュニティ組織には、常勤の人的配置だとか、施設の運営、管理費も含めて行政施策として行われるということだと思います。櫛引の状況を見ますと、それぞれの役員が仕事をもちながら役員をしておりますので、大変苦勞が多いと思います。

役員負担が多い中で、地区では役員のなり手がなくて毎年役員が変わる集落が多いと聞いております。このような中で拠点施設や組織がなくてやっていけるのか。こういう不安を私も少しは持っています。櫛引地域の現状を見ますと、これは他の地域も同じですが、教育委員会の職員は庁舎からいなくなって、そして庁舎の職員も年々減っていくという状況があり、また、人も変わって年々分からなくなっていると思います。これは合併すれば当然そのような流れになるんだろうと思います。

今後、広域的なコミュニティ組織の役割が重要になってくるとも考えられますので、真剣にこの審議会でも議論をする必要があると思います。

#### **松浦委員**

私は、昨年までは観光協会の立場でしたが、今年は加藤清正公忠廣公遺蹟顕彰会の立場から発言させていただきます。先ほど、前田会長のほうから、ある意味で元気がなくなったという発言がありましたけれども、合併すればこの地域の元気がなくなるのは当然です。何故かという、鶴岡は、我々の櫛引地域よりも格段に上の組織を持った地域であるし、貰われてきた嬉みみたいなもので、発言もほどほどで、拠点となる役場が非常に遠くなってきた、そういうことが一つではないかと思います。元気がなくなったのをいかにして元気を取り戻すかということですが、皆さんが守ってきた文化、伝承を極力皆さんの話を聞いて守り通していく組織を作りだしていくことが大事だと思います。

今、加藤清正公忠廣公の遺蹟を顕彰する上で色んなことが検討されていますが、会長になるまでは分からなかったのですが、よくこんな小さな集落がこんな大きなことをやってきたものだなあとつくづく感心させられました。できるだけ力を尽くしていきたいという気持ちに変わってきました。そして自分の立場に誇りを持つようにもなってきました。これは、地域コミュニティを守っていく大きな要因にもなるものだと思います。

地域コミュニティとよく言いますが、小集落で守っていかなければならないことがコミュニティにはいっぱいあります。獅子舞、天狗、これは非常にいい文化でありますけれども、地域の小集落で守っていくという使命感が大事であります。

黒川能や加藤清正・忠廣公のように、他県とまたがる、熊本県とも大きな交流のあるところで、一つの集落で守っていけるかという点を決してそうでない。中に入ってみるとつくづくそうでないと分かってきました。コミュニティのあり方の資料にも非常にいいことが書いてあります。参考資料の3の地域のコミュニティ像と役割ですけれども、安定した家庭、家族の時間を求めて地域を元気あるものにしていこうということ、隣近所との良好な関係を大事にしていこうというのが最近は全く少なくなりました。時代とともに変わっていくものだと思いますが、こういうことを地区で逐次話していくことが大事だと思います。

加藤清正忠廣公のことを見ますと、400年近く歴史を守っている。良くここまでがんばってきたとつくづく感心します。大きな鶴岡市となったので、より良いものを作っていこうという意気込みが大事だと私は思っております。

この10月22日から4日間、熊本の加藤神社の崇敬会、学者もいますし、県会議員も含めて、40名程来ます。非常に期待が大きいです。忠廣公がこんなに寒いところに配流されて貧しい生活を送っていただろうと思っていたのが、この丸岡地区に来て大変大事された。おそらく熊本にいた以上に幸せだったのではないかとよく熊本の方達は話しをされます。そうしたことから、この地域の交流を更に大きなものにして、一層加藤清正公忠廣公を通じた交流を深めていきたいと話をしてくれます。そんなことで私達も、こんな良い文化を育て歴史を伝承してくれて、丸岡地区の皆さんと一緒に、何とか観光に結びつくような心構えを持つよう皆さんにもお願いしたいと思っていますところですよ。

丸岡の集落だけで守っていくのは難しいと、そういう意気込みと心構えは必要ですけれども、他県とも一緒になって歴史文化を守っていくには、やはり大きい鶴岡市の力を借りないといけないと考えるようになっています。

そして、この中味は今結構難しいです。けれども、良い文化を育てていく、守っていく使命感を持てるような地域コミュニティを確立できるようにしてもらいたい。このことは地域の観光に大きく結びつくことと確信しております。審議会でもご理解いただきご協力をいただきたい。

#### 今野慎太郎委員

鶴岡市のルネサンス宣言ということで、市民力、地域力、行政力の3つの力で地域の総合力を発揮するという大きなテーマがあります。ちょっとお聞きしたいのですが、新市の振興計画が策定されているとお聞きしてますけれども、本日の会議ではその中味は聞かなくていいですが、そういうものがありましたら、是非とも次回あたりの会議で簡単に結構なので概要的に説明いただきたいと思っております。

地域を活性化する方策としては、2つあると私は思います。一つは即効性のある取り組みが一つだろうと思います。二つ目には徐々に効果を期待する方策、この二つではないかと思っております。特に、先ほども商工会の会長からも話があったように、夏祭りの実行委員会が各組織の代表でもって構成され実施されてきました。このことは大変良いことだと思

いますけれども、夏祭りだけでなく地域の活性化のためにそういった組織を、行政だけでなく組織化して開催する方向でやれたら、活性化のために効果が出るのではないかと思います。

地域の老人クラブは、お陰様で元気ががんばっていますが、地域に帰っては地域に貢献した活動をしております。何でもかかを簡単に申し上げれば、世帯主として仕事をリタイア、一段落した方達ですので、これから健康で長生きすることが第 2 の人生だと、目的が共通しているから、老人クラブというのはある程度力が発揮できるのではないかと、そのことが地域の活性化にもある程度貢献しているのではないかと考えております。

これから老人クラブ自体も年々賞味期限切れの方々も出てきますけれども、それ以外の方は 1 日でも多く年金を受給できるように、皆さん体力づくりにがんばっておりますので、今後ともよろしくをお願いします。

### 成田勇委員

なかなか言葉が釈然としなかったのですが、ようやく私なりに整理ついたので、庁舎の皆さんが言う地区公民館という捉え方、我々はべにばな国体までは部落公民館といていたのですが、直されて地区公民館となったのですが、地区公民館という言葉が、委員の中でもまだまだ明確になってないのでないかと。櫛引には地区公民館は 1 箇所もない、中央公民館はある。我々の頭の中は、松根にあるのは地区公民館その辺の認識の違いがあったと見受けられます。

まず一つは、行財政改革が出たその頃に広域的なコミュニティ組織が一緒に出てきているという感じを受けているのですが、広域的なコミュニティ組織が何で必要なのか、私はまだよく分からないのです。しかも、小学校区ごとに、東、西、南に置こうとするのはなぜか、この辺が正直釈然としないものがあります。それから人口減少とか地区の課題が色々出てきましたけれども、庁舎が 3 年かけて取ったコミュニティ実態調査の地域課題から出てきたものではないのです。だから正しく分からないということになります。

そういう意味で、藤島地区がモデル地区になっていますが、大きな反対がなかったように聞いていますが、内部的には様々だとも聞いております。

従って、行政的に見れば旧鶴岡地域の現状と課題というものを明確にすることが一つであって、その上に立って藤島のモデルの地域活動センターがどのような構想で進められていくのかということも、是非お聞きしたいものだと思っています。

21 の自治組織と自治公民館は、人材育成では一体的なものです。これを核にしながらも、なお広域的なコミュニティ組織が必要なのかを明確にしていく必要があるかと思うのですが、感想としては、藤島がどのようにモデル化していくのか是非知りたいと思っております。

そういうことをして、櫛引のイメージが具体化してくるのでないかと思うのですが、今のところは、なぜ必要なのかがわからない。

ただ、今年度からの櫛引庁舎の教育課の廃止に伴って、機能が総務企画課に移ったわけですが、公民館の人的配置、個人には何も異論はありませんが、人的配置を見るとこの姿が広域コミュニティの姿なのかなと。そういう姿に近づくのかなと感じています。正規の職員が非常に少なくなってきました。まして、生涯学習の機能が十分発揮できるのかとの懸念を私は感じておりますし、このことは市長と語る会でも言いましたけれども、それとあわせてスポーツセンターのいわゆる切り離しの中で、色々総括すべき課題が色々出てきているのではないかと。生涯学習機能もそうですが、今年度から櫛引庁舎が実施している教育課がなくなると、ある意味では社会教育、こういう活動に様々な課題があるのではないかと、そういうものをやはりきちっと総括しながら、例えばもっときちんと人的配置をする、社会教育主事の資格を持っている人を配置するとか、目に見える機能を市の方できちっと配置してくれるのであれば、そこに何らかの希望が見えてくる。しかし機能としては低下していると思いますので、この機能が行政改革の流れの中のいわゆる広域的なコミュニティ組織ということになると、ますます元気がなくなるのではないかと懸念を持っております。

そういう意味では、この審議会で行政改革に基づく色々な施策について議論していくことは、非常に重要だと思います。

#### **森委員**

宝谷は、21の集落の中で一番小さい、27戸という戸数となっております。今大変悩んでいるということがありまして、自治公民館としての役割を果たせていないのではないかと感じております。なぜかといえば、人数が少ないのもありますが、今では体育部門に参加することができない状況で、そのことで、みんなと付き合いもできないという状況で、なかなか地域の活性化にもつながらないというのが現状だと思います。そんな中で、私達としても今一丸となってやらなければならないことはやってはいますが、今まで地域でやってきた中味を少しずつ変えながらも、何とか宝谷地区の中でみんなが楽しくやっていけるような状態を作らなければならないと、最近みんなで考えるようになりました。

小さな集落ですが、行政の中で一定の形にはめないで、地域のことを十分聞き取りしながら、もっともっと住民がみんなの地域だと思えるようなコミュニティを望んでいるわけですので、我々地域も一生懸命がんばりますが、市としてのやり方も地区との話し合いを十分して、意見を聞きながらの対応をしてもらいたいと思います。

#### **齋藤美恵委員**

黒川で農家民宿をしている齋藤です。コミュニティと直接関係あるか分かりませんが、黒川能の里という会を作りまして、産業課の小池さんたちの力を借りまして農家民宿を2軒開業することができました。また、現在2軒が準備中となっております。素晴らしい地域でもありますので、1日でも長く滞在してもらいたいという思いもありまして、温泉のゆ〜Townとか、野菜がとにかくおいしいといわれますので「産直めぐり」を利用して

もらったりして、微力ながら地域を知ってもらいたいなあと思っております。

先ほどの提案の中に女性消防のことがありましたけれども、その時私も関係しておりましたが、防災の面では女性の力が大いにあると思います。実際防災に直接関係しているのも女性であります。女性消防からもがんばってもらいたいですし、地域の防災に力を入れてもらいたいです。

#### **今野亨委員**

私も、生まれてもう50数年経ちましたけれども、活動の単位は、東北の自治公民館で行事をやってきたり、伝統的な行事に参加するにも公民館の単位、あるいは東荒屋の単位が、体に染み付いているような気がします。いままであれば櫛引の単位、その程度の規模で成り立ってきたのだと思いますが、大きな鶴岡となると、他との兼合いもあるでしょうから、多少不具合が出てきているのかなあと感じます。

以前、10年以上前になりますが、旧朝日村の松ヶ崎という地区にお邪魔したことがあります。松ヶ崎の部落公民館の新築工事ということでお手伝いさせていただきました。その時の松ヶ崎の戸数が17戸だったと記憶しております。4、5年前地区の役員と懇親の席がありまして、その時でまた減っていて12、3戸になって、コミュニティとして役員の選出も成り立たなくなってきたという話を聞いた記憶があります。それが現在の櫛引にそのまま当てはまるとは思いませんが、松ヶ崎は、大鳥地区にありまして、4集落ありますけれども、大鳥地区のまとまりが非常に強くて、熊1頭を解体して地区の集会施設で熊汁をして食べるというので呼ばれて行ったのですが、小さい集落の単位だけでなく、大鳥地区という大きな単位があるからこそ、13戸の松ヶ崎もがんばっていけるのかなあと思いました。

出来れば、いままでの部落の単位の特徴がなくならないような形で、いままでなかった地域のコミセンが万一できたとしても、それがどういう方向に向かうのかわからなくて、地区の自治公民館がどっち向けばいいかわからなくなってしまうような、方向性を見出していければいいかなあと感じております。

#### **斎藤副会長**

これで皆さんからひと通りご意見を頂戴しました。もう少し全体的に皆さんから意見や質問があれば頂戴しまして、その後に前田会長さんからフォローをしていただきたいと思います。

#### **前田会長**

先ほどの提案説明の中で、大事なことを忘れていましたので補足いたします。67国体ベにはな国体、これは画期的な出来事ことだったと思います。山形県の開催地域の中で民宿で行うことができた、これは画期的なことで、この影には自治公民館・自治組織の磐石な支えがあって成功できたことで、このことは、後世に残る業績だと思います。

このことを今後後輩達にその状況を語りついでいかなければならない。あのときの結束

力、そして対応、くじを引いてチームを選んだこの楽しさ、このことを先ほど申し上げないでしまいました。あの時実は、熊本県だけは抽選からはずしていただいて、丸岡でやっていただきました。結果的に4位になりました。かつてそんな成績は収めたことがなかったそうで、これは応援のおかげだと地元の方々、大いに自負しておりますけれども、そういうことがございました。

それからもう一つ、女性消防の隊長がここにいらっしゃるのを知っていたのですけれども、先ほどこの場で申し上げないでしまいました。当時の女性消防の隊長は彼女がやっておりましたので、そして銅メダルを獲得したという事実がありまして、そのことも補足させていただきます。

### 佐藤支所長

皆さんから色々ご意見をいただいて、お答えできるところとできないところがあるかと思えますけれども、まず、今回の事務局案の主旨ですが、広域的なコミュニティ組織という言葉、かなり誤解を生む言葉でもありまして、新たに何かに置き換えるというイメージもちょっとあるのですけれども、そういったことではなくて、櫛引は既に21地区に集約された自治組織があり、旧櫛引町単位一つで物事をやってきたということで、それは鶴岡市の中で先進的なスタイルだと思いますし、ほかよりも先行していると私達は認識しております。

その中で合併以来、先ほどからお話ありますように、地域の活力、地域のコミュニティの輝きを増すといいですか、あるいは取り戻していくということであれば、やはり地区の区長会であるとか、自治会であるとか、福祉の団体であるとか、そういった皆さんが一つの場で意見を戦わせて、この地区を住民主導で自ら地域づくりをしていくという、そういう機能を作るためにも、言葉は簡単ですが、連合的な組織が今の21集落と市役所の間には必要ではないのかというのがありまして、そういった意味もあつて先程来総務企画課長が説明しているのが広域コミュニティであり、よその地区では学区単位小学校単位に作っていただけるかどうか、これから議論を始めるということですが、それができた暁には、市では直営的なスタイルから、住民主導のコミュニティ組織に市が支援していくというスタイルに徐々に切り替わっていくということが予想されるものですから、その際、櫛引が今のままで庁舎と21集落が放射線状に単純につながっているスタイルだけでいいのかというところがちょっとありまして、こういったテーマで議論してはどうかという提案であります。先程、今野慎太郎委員さんからもお話ありまして、活性化のための組織という意味での提案でもございますので、そここのところをご理解いただきたいと思います。

それから人的な配置については、松根塾の塾長さんからもお話しありましたが、教育課の廃止に伴って人的な配置については、大きく人数は動いておりません。社会教育、生涯学習については、やはり長年のノウハウとか、そういったものが需要ですので、それは行政のノウハウだけではこれからの時代はやっていけないということで、地区にいらっしや

る方、色々なノウハウとか知識、学識をお持ちの方々の力を活かして、これからの地域の生涯学習、社会教育を進めていくという意味からも、広域的なコミュニティ組織の中でそういうことも十分議論して、できれば自ら地域で取り組める人的体制も含めて検討されたらどうかという主旨もございますので、そののこのところについてもご理解いただきたいと思います。

#### 今野総務企画課長

藤島はどうかという発言もありましたが、今協議を進めているという状況でありまして、なかなか見えてないところがございます。

それから、コミュニティ実態調査からの出発という話もありましたけれども、前任期委員のテーマ設定では、コミュニティ実態調査からということで提言までまとめていただいたわけですが、その中の11、12の課題についても広域的な取り組みで解決できる部分も多分にあるのかなと思っています。広域的なコミュニティ組織の必要性、それと、その単位は小学校単位なのか中学校単位なのか、という議論をできないものかと考えております。

また一つ、鶴岡のコミュニティについて検証も必要でないかというご意見もありましたが、先程参考資料1の中で6ページですが、設立後30年余りを経過した鶴岡地域のコミュニティ組織についても、これまでの活動を振り返り今後のあり方を検討する取り組みを推進する、ということも方向性の一つの柱としてコミュニティのあり方検討委員会では捉えているところでございます。

地域により実態が異なるため、広域的なコミュニティの区域設定や組織形態は柔軟に検討するとともに、導入の時期についても一律の導入には拘らないこととするという方向性で議論が進んでいると思えます。

このコミセンの設置ということでは、私の浅い知識の中からではありますけれども、社会教育という言葉が生涯学習に変わってくるという経過の中でコミュニティ防災というものが出てきまして、各地にコミュニティセンターが設置されているわけですが、コミュニティ活動の拠点を整備する手法ということで、活動の中身については地域の自主性に任せるとすることが多分にあると思いますので、活動の成果が上がるのであれば、活動の中味は千差万別で良いし、地域力によって差が出るということもあるのではないかと考えます。そういうことも含めて長年経過した組織についても、改めて振り返ってみて進めていくというところがございますので、議論になっていけばと思っているところであります。

#### 斎藤副会長

はい、ありがとうございました。実は今日4時半ぐらいまでと予定しておりましたが、残り少なくなってきました。

色々貴重なご意見をいただきまして、もっと議論すべきことはたくさんあるのですけれ

ども、今日また会長さんのほうから、過去の例を紐解いて、櫛引はどんな部分においても進取の気取りがあったと言いましょうか、新しいものにどんどん挑戦してきたという過去の歴史を紹介いただきました。そして今、新市施行7周年を経て、伝統文化を守っていくためにも、この伝統文化には、稲作や農業生産、文化財等全てひっくるまると私は思いますけれども、やはりそれらを営々として紡いできた、つないできた人々の暮らし、これがあって、今の櫛引があるわけで、合併して広域的にやっていかなければならなくなったということで市町村合併したわけですけれども、広域的なコミュニティ組織については、必要なのかも含めて、改めて考えていかなければいけない、もっと議論しなければならないという意見を随所にいただきましたので、テーマとして設定していきたいと思います。

また、今日のお話を基にしながら前田会長さんからは、コミュニティあり方検討委員会の会議においても、櫛引の意見を反映していただければと思います。

皆さんももっとご意見あるかと思いますが、幸い今日は次の会もあるということですので、またそちらでも忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。

これで（1）を終了することにご異議ありませんか。

#### **佐久間忠勝委員**

コミュニティ組織中心の発言が多かったのですが、賑わいの話も発言の機会があると思って発言していなかったのですが、賑わいの件についても若干話しをしていただきたいのですが、いいですか。提案された案の2番目に地域活性化に向けたにぎわいの創出というのがありまして、この解説を見ますと、櫛引地域の求心力の低下を心配する声、これは前回の審議会でも会長さんから色々発言があって、提案の中にも輝きがなくなった、求心力が低下したことについて、具体的に歴史的なことについても話がありました。

どんなことがあるのかなあと私なりに考えてみますと、人によって様々あると思いますが、確かに合併後心配することがあろうかと思えます。自分なりに見ている中で、求心力が大変高まっている部分も多いのではないかと、ここで求心力が低下という言い方で表現すると、合併して低下しているのだと、みんな心配しているのだと変な誤解を生みやすいと思えます。

それで具体的に考えてみると、体育、スポーツ振興の中では、櫛引は他と比較しても恵まれた環境にあると思えます。スポーツセンターや総合運動公園の利用状況を見てみると、合併後は地域外の人利用が大変増えている状況にあります。それに庄内、県内、山形県、全国大会での利用も増えています。特にグランドゴルフ場は23年度にオープンしてから広域的利用が大変多い状況です。学校施設も南小、大変立派になりました。体育館はじめ、各学校の体育館がスポ少活動やいろんな体育活動で広域的に利用されているのが現状です。

それから直売施設「産直めぐり」についても鶴岡市や山形県の中で先導的な運営を行っているわけなので、いろんなイベントで年間50万人の人が訪れ賑わっているという状況です。

それから黒川能の話もありましたが、鶴岡市を代表する民俗芸能として合併後はさらに注目を集めている。こうした状況を見ますと、求心力が高まっている状況もあるのではないかと思います。しかし、こうして資料に求心力が低下していると書いてあると、櫛引は合併してからみんなが心配しているとなるものだから、非常に誤解を生じやすいと思うので、明るいことも輝いていることもあるという認識を持つ必要があると考えてました。

#### 齋藤副会長

ただいまの佐久間委員の「求心力の低下」の記載について、会長からお願いします。

#### 前田会長

ただいまの佐久間委員のご指摘ももっともなことだと思います。ただ私どもが提案で書いたのは、体育施設や「産直めぐり」、伝統芸能で大変に注目されている事実があるということは承知しておりますが、マンパワーというか、地域民が一堂に会してお互いを確かめ合う機会が少なくなったことを、極めて限定的に申し上げたかったのであります。今例示があった施設については、一方ではたいへんな賑わいがある、先程松浦委員からも話しがあった丸岡の関係でも、熊本からや高山からも今年になって3回も当地に訪問いただいているといった活発な交流も一つの求心力であるわけで、注目もされていることであります。

提案しているのは、コミュニティと併せて、櫛引地域の人が心を通わせて確認し合う場所という意味での提案でありますので、ご理解いただきたいと思えます。

#### 齋藤副会長

ただいま会長から、マンパワーが少なくなり、地域民が一堂に会してお互いを確かめ合う機会や場が少なくなった、という説明でしたしがよろしいですか。

#### 佐久間忠勝委員

内容はわかりました。

#### 齋藤副会長

それではこれで協議の（１）を終了したいと思います。（２）のその他に移ります。

#### （２）その他

ー今野総務企画課長が次回審議会の開催予定について説明ー

#### 齋藤副会長

21の自治組織が培ってきた櫛引型のコミュニティ組織をずっと継続しながら、広域的なコミュニティ推進組織について検討していくという確認が取れたと思えます。次回から皆さんから更に意見を頂戴し、今日いただいた意見をコミュニティの基本方針にも反映していければと思います。

#### 4. その他

－東日本大震災における鶴岡市の対応について－

参考資料 4 をもとに本間市民福祉課長が概要説明

－行政相談所の開設等について－

参考資料 5 をもとに菅原正一主査が概要説明

## 5 閉会

### 今野総務企画課長

それでは、これもちまして第 3 回櫛引地域審議会を閉会させていただきます。長時間にわたりご苦勞様でございました。

16:37